

別府市学校給食施設のあり方検討委員会

第6回 議事録概要版

- 日 時 令和元年5月28日(火) 8:30~9:30
- 場 所 別府市役所5F 大会議室
- 出席委員 福谷委員 蔵前委員 高松委員 大塚委員 後藤委員 米田委員
後藤栄委員 豊永委員 佐藤委員 稲尾委員 10名
- 事務局 末田教育次長兼教育政策課長 花木スポーツ健康課長 加藤
古本 豊田 宇野 佐藤 甲斐 重岡
- 傍聴者 8名 報道関係者6社、秘書広報課2名
- 会次第 1 開会
2 議事
(1) 検討委員会意見書(最終)について

【委員長】議事を進行する。本検討委員会は原則公開をしているが、委員長判断で非公開とする場合もある。なお、会議の傍聴にあたっては、録音・録画は禁止とする。マスコミ関係の方で撮影をご希望される場合は、冒頭のみ可とさせていただく。それでは本日の議題に入る。第1号議案は「別府市学校給食施設のあり方委員会意見書」について。事務局から説明をお願いします。

【事務局】「別府市学校給食施設のあり方検討委員会」の経緯と意見書最終案について説明する。

【委員長】ただいま意見書最終案について事務局から説明があった。意見書の調整は委員長に一任いただいたので事務局とのあいだで作成した。各委員には事前に送付し、ご意見をいただき再調整を行っているので、全員異議なく委員会意見書として決定させていただいてよろしいか。まずこの点についてご意見をお願いします。

【委員】委員会の意見として皆様の意見をきちんと載せていただいてこの意見書で問題ない。

【委員】同様の意見だ。特に食物アレルギー対応に関しては、子どもの立場にたってできるだけ対応を行うことができるのが望ましいと思う。現場の方にも過度な負担を与えて安全な給食が提供できなくならないように、推進していただけるとありがたい。

【委員】賛成だ。先日報道でこの件が出てから周りからの声とか要請とかがあるので、今回まとめたものを基に、そういう声かけがあったときには丁寧な説明をしていただき、子どもたちにとってよりよい施設になればと思う。

【委員】小学校の保護者の立場で現状から不安を覚えている保護者も大変多くいるかと思うが、意見書の中では保護者の不安を解消していただけるような内容も十分含まれている。財政の面や将来の子どもたちの負担の面なども十分に内容に含まれているので、特に異議はない。

【委員】意見書の中にあつたように、今ある施設以上のものができるように。子どもとの距離が小学校よりもどうしても遠くなるので、その距離を埋めるような献立を作成し、教育委員会を中心に、遠くから届くけれども子ども達には給食が身近に感じられるような体制づくりをこれからもしていただきたい。

【委員】食育がこんなに学校の中で重視されるということがよくわかった。どういう風に

子どもに美味しいものを安全に食べてもらうか、食を通じて学んでもらうのか、学校の先生は大変だという印象。むしろそれは社会のほうに問題があって家族でごはんを食べるという習慣を日本社会はつくるべきだと思う。ヨーロッパのほうは家に帰って昼飯をたべるという、わが国ではそういう習慣はない。5時や6時に帰ってきて家族で食べて、食べることを話題にしながらそういう雰囲気も、共働きであったりあるいは単身であったりさまざまな事情でできない部分があるだろうが、社会そのものを変えるという必要もあることを勉強した。

【委員】きちんと結論がでたことは満足している。できるだけ早く建て替え等お願いしたいと思うが、ここは事務局にもお願いしたい。今後結論が出たということで、今実際働いている共同調理場、あるいは単独調理場の職員に対してもある程度しっかりとした伝え方をして、それと特に単独調理場については正規職員が多くいるので十分不安の残らないような説明をしてほしい。

【委員】この意見書について異議はない。ただ審議のなかで理想と現実部分ということをずっと考えてきたが、やはり理想をどれだけ叶えられるのかというところ。小学校、幼稚園の立場からしては子どもたちの笑顔が頭の中に浮かんでくる。理想を今でも追い求められたらという気持ちが十分ある。ただ現実という壁があって、これが異議はなくまとまったということだが、私たちはあくまでも子どもの笑顔というものを求めたいという思いはある。

【委員】異議はない。これまでの学校給食の取り組みの成果を上回るような施設整備を目指すというのが私どもの基本的な姿勢だということを明示されているということ、6回に渡る審議の姿を言葉としてきちっと文にしていることについては感謝をしている。今回の審議を通して、食のあり方については市教委にも援助していただきながら、新しい体制で食育充実をしていかなければと思う。

【委員長】理想と現実を結ぶ意見書であるが、理想に向かって改善すべきことは残っており、関係者は常に理想を求めてよりよい方向に展開していくということが本来のあり方だ。この委員会のひとつの結論は途中経過とすべきというのをわれわれは十分認識しなければいけない。他によろしいか。それでは別府市学校給食施設のあり方検討委員会の意見書として決定する。については委員会設置要綱第2条に基づき別府市教育委員会にのちほど意見書を提出する。これまで6回にわたり委員会を開催したが、各委員のご協力により活発な議論が行われ、本日意見書としてまとめることができた。心より感謝申し上げます。